

2010/8/11開催・資産運用セミナー
キャッシュフローを生む力としての資産価値

～時価(キャッシュフローの現在価値)からキャッシュフローそのものへ～

アンケート結果

HCアセットマネジメント株式会社

「セミナーテーマに関するアンケート」結果報告

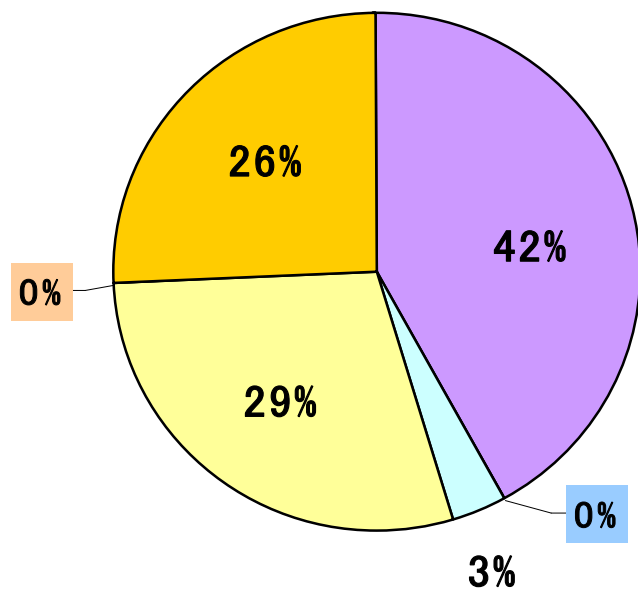
資産評価に用いる指標、債券・株式・不動産運用についてアンケートを実施。

- ・セミナー参加者人数 計41名
- ・アンケート回答者人数 計31名

回答率 : 75%

※小数点第一位以下切捨

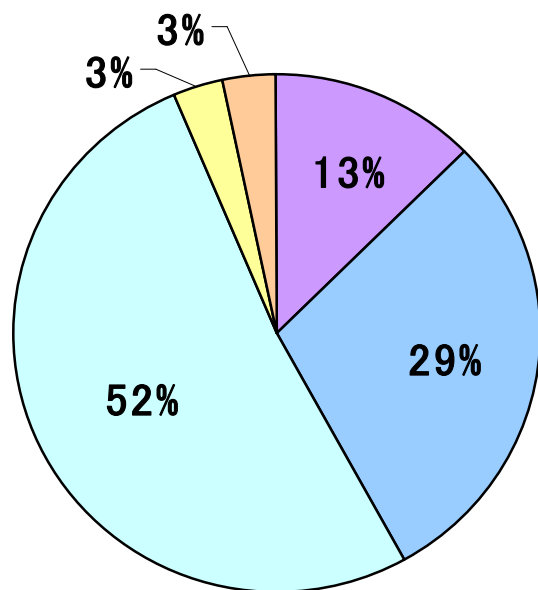
アンケートにご協力頂いた方の業種別割合



| | 人数 |
|----|----|
| ① | 13 |
| ② | 0 |
| ③ | 1 |
| ④ | 9 |
| ⑤ | 0 |
| ⑥ | 8 |
| 合計 | 31 |

- ①年金基金もしくは母体企業の資産運用管理者
- ②金融機関の自己資産運用担当者
- ③大学財団など、その他法人の資産運用担当者
- ④投資運用業者(信託銀行を含む)
- ⑤コンサルタント
- ⑥その他

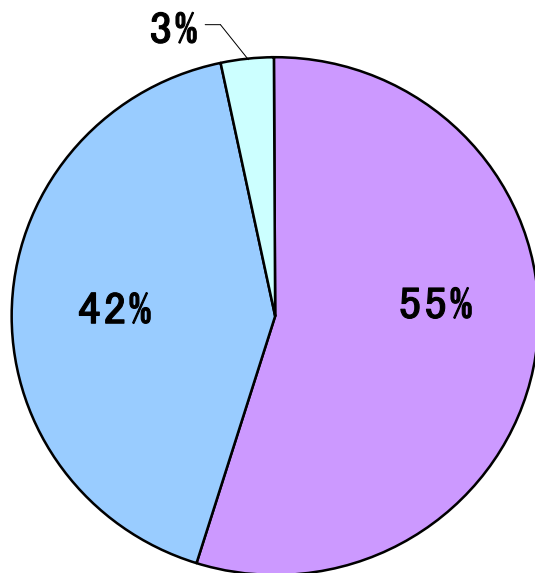
Q1 「キャッシュフローを生む力としての資産価値」という視点にたったとき、会計的な目的において、資産評価に用いる指標として、どれが適切でしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけお選びください。



| | 人数 |
|----|----|
| ① | 4 |
| ② | 9 |
| ③ | 16 |
| ④ | 1 |
| ⑤ | 1 |
| 合計 | 31 |

- ①市場価格(いわゆる「時価」)
- ②推計キャッシュフローの現在価値として計算される理論価値
- ③推計キャッシュフローに重要な変化がない限り、取得価格(簿価)を用い、キャッシュフローの減少が見込まれる限りにおいてのみ、適宜、減損処理すればよい
- ④その他
- ⑤無回答

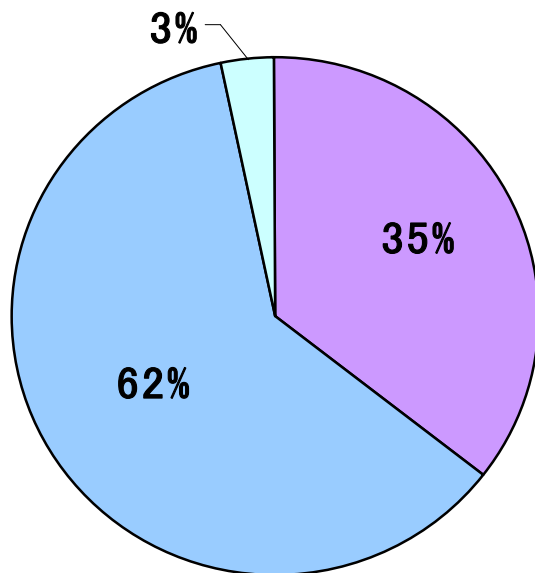
Q2 債券の運用について、どのようにお考えでしょうか。どちらかといえば、より近いほうを選択ください。



| | 人数 |
|----|----|
| ① | 17 |
| ② | 13 |
| ③ | 1 |
| 合計 | 31 |

- ①金利収入を得ることが目的なので、適宜、入替えを行うにしても、原則としては、満期まで保有する前提で銘柄選択を行う
- ②価格変動を見込んだトータル・リターンで考えるべきなので、原則としては、途中売却の可能性が高いことを前提に銘柄選択を行う
- ③無回答

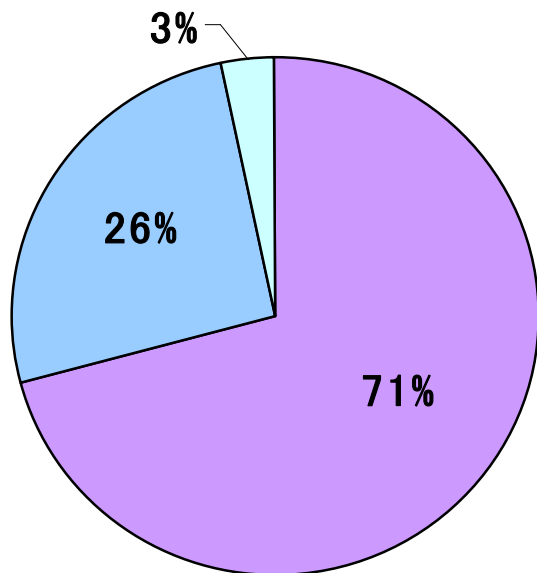
Q3 株式の運用について、どのようにお考えでしょうか。どちらかといえば、より近いほうを選択ください。



| | 人数 |
|----|----|
| ① | 11 |
| ② | 19 |
| ③ | 1 |
| 合計 | 31 |

- ①株式の理論価格は配当流れの現在価値なので、将来の配当余力を基準に銘柄選択を行う
- ②企業価値の本質は、内部留保の将来へ向けた投資能力にあるので、成長戦略を基準に銘柄選択を行う
- ③無回答

Q4 不動産の運用について、どのようにお考えでしょうか。どちらかといえば、より近いほうを選択ください。



| | 人数 |
|----|----|
| ① | 22 |
| ② | 8 |
| ③ | 1 |
| 合計 | 31 |

- ①不動産投資の本質は、賃料収入を得ることなので、将来的な価格上昇は見込むべきではない
- ②確かに賃料収入を得ることが目的だとしても、インフレ等による賃料の上昇により、結果的に不動産価格の上昇をもたらす点が、より重要な要素である
- ③無回答